

商用ガスタービンの第1号機

登録番号	第 00146 号		
登録年月日	2014（平成24）年9月2日	登録区分	第二種 （単一又は極めて少量生産されたもの）

名 称 （型式等）	MW-171形ガスタービン（MW-171G）
所 在 地	兵庫県高砂市 三菱重工業株式会社 高砂製作所
所 有 者 （管理者）	三菱重工業株式会社 高砂製作所
製 作 者 （社）	新三菱重工業株式会社（現：三菱重工業株式会社）
製 作 年	1963年
初 出 年	1963年
選定理由	新三菱重工業(株)（現：三菱重工業株式会社）が米国ウェスチングハウス社との技術提携で製作した商用ガスタービンの第1号機である。1963年、旭硝子千葉工場に納入された。12,000kWは、当時のオープンサイクルガスタービンとしては国内最大容量であった。約40年間、25万時間以上運転され、2000年に役目を終了した。発電コストを抑えるためにC重油と天然ガスを使用し、タービン入口温度は約730℃、排ガスボイラで熱回収を行うなど、後年のコージェネレーション設備を先取りした設計となっていた。煙や煤塵の元になる成分や金属材料の高温腐食を起こす成分を多く含むC重油を焚くため、燃焼技術の開発やタービン翼の腐食抑制技術の開発が行われ、その取り組みは、その後の日本のガスタービン技術の自主開発の基礎となり、事業用コンバインドサイクル用大型ガスタービンの開発へとつながった。
登録基準	一ーイ （科学技術の発展の重要な側面及び段階を示すもの）

公開・非公開	非公開
写 真	
その他参考となるべき事項	